

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域やグローバルな世界で「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む。 2 安全で安心な学習環境のもと、お互いを尊重し、自尊感情を育む。 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む。 4 自ら学び続ける教師集団を育む。

2 中期的目標

<p>(1) 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICT活用と言語活動をキーワードに、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。 ② 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。 ③ 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。 ④ 校内留学「イズトリ英語村」プロジェクトをモデルとした「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。 <p>(2) 安全で安心な学習環境の維持と自尊感情の育成。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒をより深く理解するために、「高校生活支援カード」「個人面談週間(4月・6月・11月)」等を活用する。 また、「学年会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。 ② 部活動や体験活動、ボランティアなどへの積極的な参加を推進する。H28年度には、部活動参加率をH25年度と比較して10ポイント増加させる。 ③ 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心並びに他者を思いやる心、規範意識を高める。 ④ 防災教育や危機管理体制を再構築する。 <p>(3) 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 3年間のキャリア教育プランに基づき、1年次から進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。 ② 「キャリアコネクト(進路だより)」等を工夫・充実し、生徒や保護者へのきめ細やか情報の提供を行う。 ③ 基礎教養の定着度や「個々の強み」を知るために、アセスメントを活用し、ひとり一人が持てる力を伸ばし、進路実現を図る。 ④ 進路未定者を減少させる。H28年度には、H25年度と比較して10ポイント減少させる。 <p>(4) 自ら学び続ける教師集団を育む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① パッケージ研修や10年経験者研修等を活用した教科横断的な研修で、自ら学び続ける教師集団を育む。 ② 若手教員と先輩教員との情報交換をする場を定期的に設ける。 ③ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。 ④ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成26年12月実施]	学校協議会からの意見
<p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者) 　あてはまる%</p> <p>1 確かな学力 〇わかりやすい授業を拡充・展開する 26年 (25年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「内容がわかりやすい授業が多い」 60.5% (65.1%) 教「授業において、生徒が理解できている手ごたえがある」 53.5% (77.3%) 保「内容がわかりやすい授業が多いようだ」 51.5% (62.5%) <p>少人数授業や ICT の活用など、参加体験型で学ぶ意欲がわくように工夫した授業が増えてきた。しかし、数値的には低下しており、原因究明が課題である。</p> <p>2 安全安心な学校 〇生徒に寄り添う生活指導 26年 (25年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 56.4% (56.4%) 教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」 74.5% (75.0%) 保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」 61.8% (64.3%) <p>生徒の回答が24年53.5%→25年56.4%と3年間ほぼ同率である。教員の思いとかなり乖離しているので、引き続き「支援カード」等を活用していきたい。</p> <p>3 将来の生き方デザイン 〇1年からの系統的なキャリア教育 26年 (25年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」 53.1% (53.3%) 教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」 55.9% (70.4%) 保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話している」 58.3% (57.4%) <p>1年からのキャリア教育については、教員間での情報共有が課題。</p> <p>4 教員の育成(資質向上) 〇校内教員研修の充実 26年 (25年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「他の先生が授業を見学にすることがある」 69.4% (67.4%) 教「研究授業を定期的実施している」 30.3% (40.9%) 保「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」 59.5% (63.2%) <p>お互いに授業を見る機会が増えているものと思われ、よい事例を参考にした授業改善が組織的に行えるよう主体的な取組みが待たれる。</p>	<p style="text-align: center;"><u>第1回学校協議会 (平成26年6月13日)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校の概要説明(略) 2 学校経営計画について ・学力を向上させるため「学力向上プロジェクトチーム」を立ち上げる一方、事務室と協力し環境整備に取り組む。 3 協議会委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> ○生徒を育てるという意味で「生徒が主役の学校」はよいと思う。また「学力向上」と「生徒に目標を持たせること」が大切である。 ○本校は「良い環境」の中で学べる、良さを前面に出してもいいのではないかと。 ○様々な情報を流し、具体的な話を通じて生きていく道を考えさせる必要がある。 <p style="text-align: center;"><u>第2回学校協議会 (平成26年11月7日)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ワークショップ(教員との合同研究討議)を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「長期休業の過ごし方」 ・3班で「学校内」と「学校外」の分類で討議し、最後に各班からの発表。 2 協議会委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> ○学校を良くしたいという先生方の意欲が感じられ、このまま頑張してほしい。 ○何もしないで家にいる生徒を、学校にどう向かせていくのが大切である。 ○委員、管理職、教職員が一体となった協議会である。グループワークができる学校は少ない。 <p style="text-align: center;"><u>第3回学校協議会 (平成27年1月30日)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本年度の進路等の状況報告 2 平成26年度授業アンケート結果の報告、学校教育自己診断の分析について 3 協議会委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> 「平成26・27年度学校経営計画・学校評価(案)について」 ○学校経営計画をどう具現化するか方法論を議論する必要がある。 ○「日常の挨拶を大切に規範意識を高め」「やすらぎがあり」「先生が相談に乗ってくれ」また「授業力」を延ばせばさらに地元の支持も得られる。 ○先生にとって一番大切なことは事務処理でなく生徒とかかわる時間である。マナーができていれば保護者も安心する。先生も生徒もマナー向上をめざしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
Ⅰ 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す</p> <p>(2) 生徒の「多様な学び」を保障する</p>	<p>(1) ア ICT活用等、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる新しい授業法を研究し実施する。 イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り基礎基本の定着に努める。</p> <p>(2) ア 「学力向上のためのプロジェクトチーム」を立ち上げ、生徒の多様な学びについて検討する。 イ 校内留学「イズトリ英語村」プロジェクトの2年目に取り組む。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。</p>	<p>・学校教育自己診断 (1)-ア 「ICTを使って授業を展開している」が75%以上 (1)-イ 「内容がわかりやすい授業が多い」が70%以上 (2)-ア プロジェクトチームを7月までに、立ち上げる。 (2)-イ 英検の受検者数を前年度比1.2倍。アンケート「英語への興味関心」に対する肯定的回答ポイント上昇 (2)-イ 3級合格者数を前年度比1.2倍にする。準2級の合格者数を3人以上とする。 (2)-ウ 評価育成の「授業力」の項目で、「考える」「発表する」授業の実施を50%の教員が目標にする。</p>	<p>(1)-ア ICTを活用した授業は昨年度の70.5%から74.4%と4%アップし、ほぼ目標を達成している。(○) (1)-イ 3年生では71.2%と達成しているが、学年が下がるにしたがって低下し、全体では65%から61%に減少した。(△) (2)-ア プロジェクトチームを立ち上げて、学力向上を図る方策の検討会を開催している。(○) (2)-イ 英検の受検者数は26名から25名へと1名減少した。(△) 「英語への興味関心」アンケートは、昨年度より肯定的回答ポイントが80%から94%に向上した。(○) (2)-イ 3級合格者数は9名から3名、準2級は1名から0名合格で目標達成できなかったが、受検者数はほぼ同数であった。(△) (2)-ウ 「考える」「発表する」授業を充実させることができた。また、自己申告票の「授業力」の項目では50%以上が目標としていた。(○)</p>
Ⅱ 安全で安心な学習環境の維持と自尊感情の育成	<p>(1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活</p> <p>(2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める</p> <p>(3) 防災教育</p>	<p>(1) ア 「高校生活支援カード」が、学校にとっても保護者にとっても支援の入口となるように活用する。また、「個人面談週間」等(4月・6月・11月)を活用し、生徒理解を深める。 イ 新入生に「部活動体験」を実施し、部活動参加率の向上を図る。</p> <p>(2) ア 夏休み等を利用した体験活動、ボランティアなどへの積極的な参加を推進する。 イ 遅刻指導の見直しを行う。 ウ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」を継続して実施する。 エ 学校行事において、生徒が前面に立った運営を行う。 オ 「交通安全週間」の新設や「乗車マナーキャンペーン」「校内農園による地域交流」「地域清掃」の継続実施等で、地域とのつながりや規範意識を高める。</p> <p>(3) ア 災害等に備える知識と対応する力を生徒が身に付けるための防災教育に取り組む。</p>	<p>(1)-ア 「高校生活支援カード」を活用した個人面談を4月中に実施する。 (1)-イ 部活動参加率の3ポイント上昇 (2)-ア 夏の体験課題に100人以上の生徒が参加する。 (2)-イ 遅刻指導の見直しを行い遅刻者数の10%減少 (2)-ウ スポーツフェスティバルの参加中学校数の10%増加 (2)-エ スポーツフェスティバル等の運営に50人以上の生徒が関わる。 (2)-オ 5月までに「交通安全週間」を新設する。</p> <p>(3)-ア 防災について学習する機会を年1回提供する。</p>	<p>(1)-ア 「高校生活支援カード」を活用し4月中に面談を実施した。(○) (1)-イ 部活動紹介を工夫する等、部活動への1・2年生参加者数は152人から217人へと増加し、参加率は26%から28%と増加した。(○) (2)-ア 1・2年生のインターンシップや体験実習、ボランティアなど積極的に声掛けをしたが85人の参加であった。(△) (2)-イ 年間を通じて登下校時の通学路等での声掛けなどを継続した。見直しはできなかった。12月現在の遅刻総数12,361⇒8,879 (○) (2)-ウ スポーツフェスティバルは、新しくバスケットボール大会を開催したが、参加校は18校で同数だった。(△) (2)-エ 運営には、バスケット、サッカー、テニス、陸上部のクラブ員が67人の生徒が関わった。(○) (2)-オ 「乗車マナーキャンペーン」「校内農園による地域交流」「地域清掃」は継続して実施した。交通安全指導として通学路での指導を行ったが、「交通安全週間」は新設できなかった。(○) (3)-ア 9月の防災訓練ほか適宜取り組んだ。(○)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">III 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行</p> <p>(2) アセスメントの活用</p>	<p>(1) ア 「キャリアコネクト(ワークブック)イズトリバージョン」に従って、1年次より生徒個々が将来の生き方を考える。 イ 生徒に身に付けさせたい5つの力「人や周囲と関わる力」「自分を理解する力」「自分を管理する力」「将来を考える力」「課題に対応する力」を各授業等、あらゆる学校教育活動の中で、すべての教員が意識して育む。 ウ 1年次より、外に出かけ、進路意識を刺激する機会を提供する。(大学、専門学校見学、インターンシップ、職場見学など) エ 「大学生による勉強会」の継続実施と「勉強クラブ」を立ち上げて、進路意識の高い生徒の学習の場を保障する。 オ 「キャリアコネクト(進路だより)」等を継続して、生徒や保護者への情報の提供を行う。</p> <p>(2) ア 生徒は、アセスメントで、自分の基礎教養の定着度や「個々の強み」を知り、教員は、進路ガイダンスに活用する。 イ 進路未定者を減少させる。</p>	<p>・学校教育自己診断 (1)-ア 「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」5%上昇 (1)-イ キャリアコネクト「成長度チェック」シートを生徒に年1回実施させる。 (1)-ウ 「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」5%上昇 (1)-エ 勉強会のべ参加人数150人以上にする。 (1)-エ 「勉強クラブ」を10月までに立ち上げる。 (1)-エ 高等看護学校に合格する生徒が1名以上出る。 (1)-オ 「キャリアコネクト」を月1回発行する。</p> <p>(2)-ア アセスメントの結果を用いた個人面談を年2回実施する。 (2)-イ 進路未定者率を3ポイント減少させる。</p>	<p>(1)-ア 生徒は53.1%で昨年とほぼ同率だった。(△) (1)-イ 25年度作成した「成長度チェック」シートは、実施できなかった。(△) (1)-ウ 生徒は昨年度53.3%から53.1%とほぼ同率であった。(△)インターンシップ等に加え、1、2年生も大学、専門学校の見学にも出かけて行った。(○) (1)-エ 勉強会は12月末で194人が参加した。(○) (1)-エ クラブ員での講習会仲間等はできつつあったが、勉強クラブの立ち上げはできず。(△) (1)-エ 高等看護学校への講習やアドバイス等を実施した。合格者は1名。(○) (1)-オ 学期初めと終わりに加え、適宜発行した。(○) (2)-ア 教育産業の方からは、個人、学年等の有志を対象に勉強会を開催したが、十分に活用できなかった。(△) (2)-イ 昨年度の3月現在25.6%から15.6%へと大きく減少した。(◎)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">IV 自ら学び続ける教師集団を育む</p>	<p>(1) 授業改善のための学び合い</p> <p>(2) ミドルリーダーの自覚を促す</p>	<p>(1) ア パッケージ研修等を外部の力を活用した研修を行い、その成果を校内で共有する。 イ ICTを活用した「使える事例」を自発的に見学する機会を持ち、自己の授業に活かす。</p> <p>(2) ア 若手教員と先輩教員との情報交換をする場を設ける。 イ 校外研修で得た情報や知識を職会等で、報告する機会を設ける。 ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」を発足し、10年目研修経験者等(ミドルリーダー層)が運営に参加する。</p>	<p>(1)-ア 「研究授業を定期的実施している」が50%になる。 (1)-イ 「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」が75%以上になる。 (2)-ア 「初任者と2年3年目教員の合同研修会」の年2回実施する。 (2)-イ 学期ごとに、1名以上が職会で報告をする。 (2)-ウ ミドルリーダーがプロジェクトチームに3名が参加する。</p>	<p>(1)-ア 初任者の研究授業はじめ学力向上のためのプロジェクトチームが授業見学を提案した。しかし、定期的には開催できなかった。 減少(40.9%⇒30.3%) (△) (1)-イ 生徒は5.6%減少(66.0%⇒60.4%) (△) (2)-ア 他校の初任との合同研修や本校2、3、4年目の教員それぞれと初任との合同研修を計4回、実施した。(○) (2)-イ 適宜報告する等にとどまり、学期ごとには報告できず。(△) (2)-ウ チームの中心メンバーとして3名が活躍している。(○)</p>